令和7年度高等学校生徒支援体制充実事業　教育活動充実事業研究成果発表

宮城県大河原産業高等学校【インターンシップ教育】

【テーマ・概要】
今回訪問した３校は、「学校」と「社会（実社会）」の２つから得られる学習や体験を融合し、先進的なキャリア教育を実施している。本校では３年間の総合的な探究の時間で「地域を知る」「地域を探る」「地域をつくる」を目標に取り組んでいる。今回の視察を参考として、新たに1年生で2日間程度のインターンシップ、2・3年生では週に1回（1ヶ月程度）、地元企業や農業法人等で丸1日の職業体験実習（デュアル実習）を検討する。

主な取組内容　大阪・京都で特色ある3校を視察した。

①　京都市立奏和高校

2021年開校の定時制普通科高校
校名「**奏和**」＝多様な生徒が響き合い共に学ぶ理念。
1クラス20名程度、1学年約80名。**3年制・4年制を入学時に選択可能**。昼～夜の**4部制**を採用。不登校経験者・学び直し希望者などに寄り添う**個別性の高い教育**を行っている。

●教育方針・育成する力
「**3つの学び**」
集団で学ぶ・様々な人と出会う・自分らしく学ぶ
「**6つの力**」の育成を重視
（学力基盤、課題解決力、コミュニケーション力、自己判断力、自己肯定感、社会で生きるための総合的な力）

●主な教育プログラム
・**ランアップ**：入学後5月までの基礎学力再構築プログラム
・**ビジテック**：ビジネス × テクノロジーの探究活動
＝地域連携が強み
・**奏和タイム**：「生徒同士の学び」の共有時間

●学習環境・支援体制
クールダウンスペース（暗室・明室）を確保
服装自由、制服は任意。個性尊重の校風

「ビジテック」で使用している教室の様子
（左）木工教室（右）普通教室

パーティションで区切ったクールダウンスペースの様子

②　大阪府立布施北高校

1978年開校の全日制総合学科高校
2017年に「**エンパワメントスクール**」へ再編
＝**生徒の力を引き出す学校という意味合い**

● 特色教育の3本柱
「学び直し支援」「少人数」「習熟度別授業」
1年次は教員3名体制で学び直しをサポートする「モジュール授業」を実施。毎朝、2時間、30分×3科目（国語・数学・英語）を集中学習

●多文化理解教育
外国籍生徒を積極受け入れ　語学支援・文化交流を推進

●キャリア教育（日本版デュアルシステム）を導入
職業訓練と実務経験を組み合わせ、若年者の職業能力を向上させる「**エンパワメント科目**」（**学校設定科目**）
・1年次：インターンシップ
・2・3年次：企業実習を週1回、時間割に組み入れ実施

● カリキュラム
2年次より3系列に分かれて学習する。
「モノづくり・ビジネス」「教育・福祉」「多文化・教養」
探究型授業「エンパワメントタイム」で自己解決力を育成

●ユニバーサルデザイン
校内掲示物や配布プリントなどに振り仮名を振る等、ユニバーサルデザインを意識

● 成果
「高い進路達成」
「生徒の自己肯定感・社会適応力の向上」
「地域・企業連携を強化し、実践的な学びによるキャリア教育の深化」

ふりがな付の掲示の様子

③　大阪府立園芸高校

1915年開校の農業系専門高校
11ヘクタールの広大な学校敷地と最新設備を備え、実践的な学びを重視

● 3学科による専門教育
・フラワーファクトリ科（草花・都市園芸）
・環境緑化科（環境整備・造園）
・バイオサイエンス科（生命科学・食品科学）
→高度な専門知識・技能の習得を目指す

● インクルーシブ教育
知的障害生徒自立支援コース「アスター」を設置
現学級所属のまま「生活自立」で学習
個別の指導計画による**個人内評価**

●実践中心カリキュラム
授業の **約45%で実習・実験を取り入れる**

● 産学連携・地域協働
企業と共同で商品開発（ジャム・ソース等）
加工～販売まで行う **6次産業化の実践**
地域とつながり、マーケティング・経営感覚も育成

● 実績
農業クラブ全国大会での技能賞・環境賞など受賞多数
生徒の専門技術・創造性の高さが好評

「サルノコシカケ」の栽培の様子

「西洋式庭園」の様子

「電子顕微鏡」の様子

視察による成果・課題

以上のことから、本校においてもインターンシップ教育の充実につとめるとともに、学校・家庭・地域が繋がり、多様な生徒が安心して教育を受けられる体制整備に取り組んでいきたい。本校の総合な探究の時間では、これまでも様々な企業や団体、自治体と連携しながら取り組んできた。こうした地域とのつながりを更に発展させ、実践的なキャリア教育に取り組んでいく。また、外部連携を進めるためにも、授業のユニバーサルデザイン化や、多様な生徒の背景を理解し、学習環境を整えていくこと、組織的に機能する支援体制の構築（特別支援教育コーディネーターの配置や、医療との連携、SSWとの連携）とともに、生徒達が働く意義や自己理解を深めるための機会の設定が必要である。都市部と地方など、それぞれの学校のおかれている状況に応じて教員の配置や設備の拡充を柔軟に進めていくことが重要である。